

令和5年度

徳島県立富岡東中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

中高一貫教育の特性を生かし、
生徒一人一人に「確かな学力」をつける教育内容の創造

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
江川 由美子 (学力向上・2学年主任・ 英語主任)	白濱真紀子(教頭)、森岡宏文(教務・数学主任)、江川由美子(2 学年主任・英語主任)坪井芳史(3学年主任・技術主任)、大和富 美(2学年主任・国語主任)、三田 亮佑(社会主任)、 松本 剛 (理科主任)

校長

中崎 誠

【小中連携または中高連携における共通の取組】

中高6年間の学習を通した知識・技能の習得・活用につながる、中高の連携を図った授業づくり

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能が身に付いていたり、与えられた課題にまじめに取り組めたりできる生徒が多い。 ●発問にある解答の条件を的確に捉えて解答することに課題がある。知識・技能の習得・活用の一層の向上をめざす。	・学習を通して習得した知識が、既習の知識と関連付けられ、他の学習の場面で活用することができる。 ・身に付けた個別の技能についても、他の学習や生活の場面において活用することができる。	・生徒が興味をもって学習に取り組むことができるように発問を工夫する。 ・中高の教員と連携した授業づくり、および相互授業参観を行う。 ・富東タイムやRRCを計画的に実施し、個に応じた指導を積極的に行う。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを書いたり、友達の意見をしっかりと聞いたりすることができる生徒が多い。 ●課題に関する必要な情報等を取り出したり、複数の考えをまとめて新しい考えを創造したり、表現したりすることに課題がある。思考力・判断力・表現力等の一層の向上をめざす。	・各授業の課題等に関する話し合い活動を行うことで、その解決のための方法を考えることができる。 ・習得、活用、探究の各場面において発表等の言語活動による表現ができる。	・ペア学習やグループ学習の機会を効果的に設定する。 ・ホワイトボードやICTを効果的に活用した発表等の言語活動を行わせる。 ・生徒の発言や発表の内容に応じ、「なぜ」、「どうして」などの更なる発問を行い、生徒の考えを深めさせる。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各授業に一生懸命取り組むことができる。また、家庭学習にも主体的に取り組むことができる。 ●各教科のバランスを考えた学習計画を立てて取り組むことと、継続的に自学自習をすることに課題がある。	・各教科の学習に主体的に取り組むことができる。 ・自分の学習の状況をしっかりと振り返り、自らの課題を解決できるよう計画を立て、実践することができる。	・何を・なぜ・どのように学ぶのが生徒に伝わるよう、授業のめあてを提示する。 ・振り返りの視点を生徒に示し、記述させたり発表させたりする。 ・定期的に生活実態調査を実施する。			

令和5年度 学力向上ロードマップ

